

項 目	6 インバウンドの回復に向けた観光振興について
答弁者	知事
質問要旨	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、一時はほぼゼロになったインバウンド、訪日旅行客数は、昨年、国が水際対策を緩和して以来、回復を続けているが、一方で、本県は、国際航空便の復便・増便が進む大都市圏と比較すると、訪日旅行客数の回復が遅れている。</p> <p>このため、本県インバウンドの速やかな回復が望まれる。私は今年の7月に、会派の視察で「神話の里」として知られる宮崎県の高千穂町を訪問した。インバウンドの誘客に取り組む観光協会では、売りである「神話の里」に関心が高い国や地域にターゲットを絞り、SNSで情報を発信することに力を入れているとのことだったが、現地では欧米の方々を中心に非常に多くの外国人旅行客が滞在しており、その成果を目の当たりにした。また、夜間に奉納される高千穂神楽を多くの外国人が拝観していたことも非常に印象的であり、いわゆる「ナイトタイムエコノミー」の推進の観点からも学ぶところが多いと感じた。</p> <p>このように、インバウンドの誘客には、魅力ある情報を効果的に発信し、旅行客の増加と滞在期間の長期化、消費額の拡大につなげることが重要である。</p> <p>また、訪日旅行は、国内旅行と違い周遊エリアが広いので、外国人に対しては、静岡県の観光地としての魅力を発信するだけでなく、近隣県と連携し、広域のPRも行うことが効果的であると考えている。</p> <p>そこで、本県インバウンドの回復に向けた、観光振興における課題と今後の取組について伺う。</p>

<答弁内容>

次に、インバウンドの回復に向けた観光振興についてであります。

本県の訪日外国人宿泊客数は、徐々に回復基調に転じておりますが、本年1月から9月までの統計では、令和元年同期比で約4割の水準にとどまっております。これは、コロナ禍前に約7割を占めていた中国からの宿泊客の回復が遅れておりまして、令和元年の1割以下となっていることが主な要因であります。一方で、ヨーロッパやオーストラリア、東南アジアからの宿泊客数は、既に令和元年を上回るなど、明るい兆しも見えはじめております。

こうした動きを更に力強いものとするため、まずは、本県の主要市場で、富士山静岡空港の就航先でもある中国や台湾など、東アジア地域からの誘客に積極的に取り組みます。具体的には、海外駐在員事務所や県内観光事業者と連携し、旅行会社を招聘する、いわゆるファミトリップをはじめ、SNSや動画を活用した情報発信、さらには、旅行商品造成への支援など、市場の特色やニーズに応じたプロモーションを展開してまいります。

特に、中国市場につきましては、9月下旬に、出野副知事が、杭州アジア大会に併

せて上海市、浙江省を訪問し、浙江省政府や旅行会社、航空会社との意見交換や、杭州市内の商業施設での観光PRイベントを行うなど、相互交流の再開を強く働き掛けてきたところであります。台湾につきましては、来年1月から3月にかけて、チャイナエアラインが台湾・高雄と静岡間のチャーター便を、週3往復、合計で31往復運航することが決定いたしました。富士山と桜、浜名湖花博など、本県の多彩な春の魅力を堪能していただけるよう、現地での情報発信を強化してまいります。

また、多様化する旅行者ニーズへの対応や、消費額の拡大、滞在日数の長期化の促進も重要な課題であります。欧米やアジア地域の訪日旅行者をターゲットに、富士山の絶景を見ながらゴルフを楽しむツアーや、多彩で高品質な食材と特色ある地域資源を融合し、感動体験を提供するガストロノミーツーリズムなど、付加価値の高い滞在型旅行商品の造成にも取り組んでまいります。

さらに、中央日本四県で取り組む「黄金KAIDOプロジェクト」、英語標記「GOLD ROAD」では、そばや日本酒、ワインなどの食文化を、歴史文化、サイクリングなどと組み合わせまして、その魅力や価値を世界に発信し、広域経済圏の形成を一層本格化させてまいります。

観光産業は、本県の地域経済や雇用を支える大変重要な産業であります。引き続き、観光事業者をはじめとする関係者の声にしっかりと耳を傾けながら、本県ならではの本物の感動体験を生かした観光コンテンツを創出し、世界中の皆様から「訪れてよし」選ばれる観光地域づくりに、全力で取り組んでまいります。